発行所
三池炭鉱労仂組合
大牟田市不知火町2
電話③3033番
③3034番
編集兼発行人 古賀 徳継
年間600円 送料共

# 一人一人が行動を起し 全国にまき起そう！ CO患者を守る闘い

CO闘争がひきつづき重要な段階に立っているとき、四山支部六分会の組長の一人＝中田勝さんは、職場新聞を通じて重要な問題を提起した。「これまでのたたかいは不十分だった。職場での反合理化闘争、生命を守るたたかいが弱かった」とし、これからは「CO患者を守るたたかいを全国に広げるためにも、まず職場で地域でもっと反合理化闘争を発展させよう」と呼びかけたのがそれで、ここには克服すべき重要な問題点が明らかにされている。いまこそ組合員一人ひとりが職場で地域で行動を起し、反合理化闘争をもりあげ、全国にCO患者を守るたたかいをまき起してゆこう。

## 私の闘いの決意

四山支部職場六分会 中田 勝

CO闘争も第二審が終りいよいよ第三審を迎えることになった。これからのたたかいは、決意を新たにしてたたかわなければならない。

政府・三井鉱山は、三審でCO患者を坑内に送り込み、首を切りCO特別法をなしくずしにしようとしていることは明らかである。

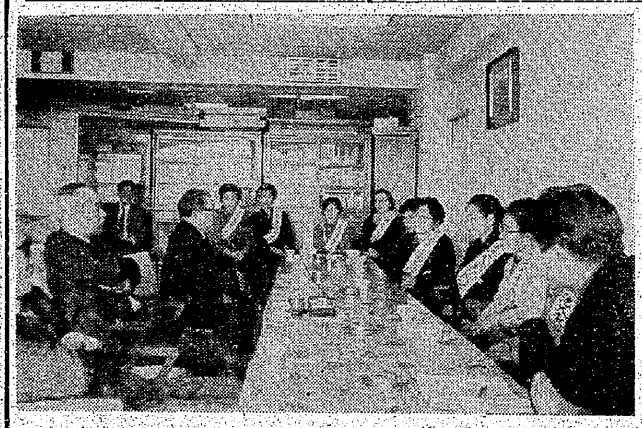
私たちは中央委員会での決議、職場での意識統一で確認されたように、「組合推せんの医師によって職場復帰できないと判断されたら、会社・政府推せんの医師がいかなる反動的判定を下そうと、われわれはCO患者を守って最後までたたかう」ことを決意した。

われわれは職場集会で、このように意志統一はしたものの、これだけではまだ不十分であると思う。同じ職場集会の中で、CO闘争は患者・家族まかせ、中央まかせであったという意見もだされたが、否定することはできない。なぜか職場での反合理化闘争、生命を守るたたかいが完全にできてなかった点を、見逃がせない。

CO闘争は、職場での反合理化闘争の基本にならなければならない。CO闘争がガップリ組まれた以上、五人組討議を強化し、職場や地域での闘争をより強化し、一人ひとりが行動を起すことで反合理化闘争を発展させなければならない。反合理化闘争をより発展させることこそ、全国にわたって"CO患者を守る会"を結成させる原動力になると思う。

職場六分会のみなさん、決意を新たに、最後の勝利まで頑張ろう！

(四山支部職場六分会の職場新聞第四号から)



### 上京団、労働省に抗議

主婦会・CO家族の上京団は、あくまで事実を見ようとせず、一方的な見解で2～3審を強行した労働省に、はげしく抗議した。写真の中で腕組みしているのが、村上基準監督局長。

## 新年文芸募集

組合員・家族のみなさん、私たちが改めて決意を固めなおす新年が近づきました。本紙はその新年を迎えるにふさわしく、豊かで、力強く、確信にあふれる新聞をつくることをめざし、なにはおいても、みなさんから文芸作品を募集することにしました。

私たちはことし、ますます尊い闘いの遺産を積みあげることができました。作品ができないはずはありません。文芸作品とて、私たちにとっては有力な闘いの武器です。闘う労仂者は、ペンも武器にかえなければならないのです。どしどし編集部あてに送ってください。

**募集作品の内容**

▼評論・手記(主張、意見、批判、職場の実態報告)
▼随筆・短編小説(とくに四千字以内にお願い)
▼コント・ひとくちばなし
▼詩・短歌・俳句・川柳
▼写真・マンガ……など。
▼しめきりは十二月二十日まで本部編集部必着のこと。

### おねがい

▼…編集部では"根性ものがたり""夫へ一言"などの提供者をさがしています。この人は…と思う人を、どしどしご推せんください。

編集部

## 血を吐いて倒れる

### 福岡中央郵便局で 強まる合理化攻撃

このほど朝日新聞の朝刊は、強制された超過勤務中に、過労がたたって吐血して倒れた一通信労仂者のことを大きく伝えた。これは、とくにCO闘争をすすめている三池労組として、そのまま見過ごせないことではなかろうか。ここにもまた、絶対に許すことのできない非情な合理化がある。

福岡市の中央郵便局で、病休を願い出た集配課員が出勤を命ぜられたうえ、二時間の超過勤務を命令され、勤務中に持病の胃カイヨウが悪化、吐血して倒れた。(中略)全逓労組福岡中央支部では事態を重視、当局と交渉、古賀局長は「配慮が足りなかった」とあやまった。

超勤中に倒れた大賀忠彦さん(三十三才)は、電話で「頭が痛く、体がだるいので、一日休ませてくれ」と、永井賢集配課長代理に申し出たが、同代理から「年末で郵便物が滞貨しているので、勤務してくれ」といわれた。

大賀さんは「病休は認めないといわれた。病休が認められないと賃金カットされるので出勤した」と話していたという。(中略)

大賀さんは配達業務を終えたあと、井上正雄集配課長から二時間の超過勤務を命ぜられた。「しばらく休ませてほしい」と申し出て休んでいたが、心配して集った同僚たちの目の前で大量の血を吐き、救急車で福岡逓信病院に收容された。

大賀さんが血を吐く前、容体を心配した同僚が大賀さんを背負って病院につれてゆこうとしたところ、志賀庄輔外務主事から「おまえはまだ勤務中だ。仕事をしないか」と注意されたともいう。(中略)

組合側では組合員約百五十人が同日午後五時半ごろ、古賀局長ら幹部を取り囲み「俺たちを殺す気か」「人権無視の業務命令だ」とはげしく抗議。(中略)

また福岡法務局も人権侵犯の疑いもある、として調査するという。(後略)

―以上朝日の記事から―

以上見られるように、福岡中央郵便局当局が、通信労仂者の一人＝大賀さんにひどい仕打ちを加えたのも、炭鉱労仂者を殺したり、ガス患者にしたりしているのも、同じ合理化だ。この記事を見た三池労組員は、だれしも怒りを覚えたろうが、ともに手をとり合って闘ってゆこう。

## 驚いた "低額妥結" 師走の街にすぐ消える

### 期末手当にまく不満渦

炭労の期末手当闘争は去月二十五日早朝、三池など大手のストライキ突入直前に妥結した。

回答は、十三万五千円の二期分要求に対して、この一期分だけの五万二千三百円。(内訳は期手＝四万五千六百円、団体報奨金＝千七百円、生産協力金＝五千円)

それに支給は二十六日以降にその六割を、残りの四割を来年の五月一日に、それぞれ分けて支給するという。(三池労組が六割支給と同時に、四割を一時立てかえ払いをすることになろうが)

ひとまず炭労として期手闘争は妥結されたものの、今回の回答といい、その支給方法といい、職場や家庭には非常な不満が渦まいている。四山支部の職場第七分会新聞の"しょくば新聞"の「その朝」という一投書がよい例で、TOMの筆名の組合員は、つぎのように不満の気持を率直に述べている。

「朝方私は地域のスピーカーから流れでる歌声に目が覚めた。スト中止だ。じゃ、いくらで妥結したのかな。そう思いながらスピーカーの伝える情報に耳をかたむけた。『五万二千三百円で妥結。スト中止になりましたので、常一番の方は出勤して下さい……』

職場にいって、くわしく聞いて驚いた。内訳もさることながら年内支給六〇%。それも二十六日以降となっていると。

四八ストのカマエよろしく期手闘争に立ちあがった私たちに、炭労はスカタン食わしたわけだ。坑外じゃ、平均とる者はだれもいない。一万五千円は、平均より少くなる。しかもその少い金を、二十六日以降にもらった途端、金は高物価の師走の街に飛んでいって消える。

四八ストはカマエだけで中止するのではダメだ。炭労、しっかりせろ」

右の投書に見るように、期末手当に対する不満は非常に強い。

## 三十万円の回答も出る秋闘

### 物価高を反映

物価値上がり傾向が強いなかで闘われている期末手当闘争は、一般的には切実な要求を反映して、昨年同期よりも一〇%～四〇%という増額回答をひきだしている。(KNAの調べによる)

## 賃上げ要求は大幅に

### アンケートの結果

炭労中央からの指示によって実施した"賃上げ"に関するアンケートが、このほど集約された。配布枚数千七百三十枚で、六四・三%の千百十三枚を回收したが、アンケートの結果からする限り賃上げ要求希望額としては一万二千円が最高だった。

なお要求希望額についての詳細は五千円(六人)、六千円(十二人)、七千円(十八人)、八千円(二十二人)、九千円(九人)、一万円(一百八十四人)、一万二千円(四百九十五人)、一万三千円以上(二百六十二人)、不明(五人)、計千百十三人である。

鉄鋼労連が昨年の一六%増しで手取りで七万二千円(八幡など)、全金属が二〇%増しの十五万三千円(北辰電機の例)など。合化労連が同様二〇%増しで、日本板ガラスなどで約十四万円。

出版労協などさらに高額で、平凡社が三十四万四千円、岩波書店が二十九万八千円など。新聞労連では二十万円(朝日)が高い方だろう。

珍広告

## 和風料理仕繰ナベ

材料 坑木、アーチ、板、レール、そのほか雑多
調味料 ぶまし、さぎょうりょう…など。
添加物 熱、汗、炭じん、岩粉…などを適当に
調理法 材料を人員比に適当に用意し、こね合わせ、汗の汁で煮る。うまく煮立ってきたら必ず「さぎょうりょう」を多い目に加え、たき終えたところで「ぶまし」を加える。最後に盛りつけとなるが、この盛りつけをなるべく少なくするのがコツで、また添加物は絶対気づかれないように加えておくことを、忘れないよう。

注意 三池労組員は「仕繰ナベ」をごっとり食わされているというが食後の感想いかに？

(三川支部十九分会新聞"あせ"から。S生さん作)